

## 福井県公共工事入札監視委員会の開催概要について

このことについて、令和元年度福井県公共工事入札監視委員会（第2回）を開催しましたので、その概要をお知らせします。

### 記

- 1 日 時 令和元年9月3日（火） 13:30 ～ 15:00
- 2 場 所 県庁3階 第4委員会室
- 3 出席委員 荒井委員、金崎委員、川上委員、清水委員、藤井委員（五十音順）
- 4 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 議題
    - ・入札および契約に係る制度の運用について
    - ・抽出事案審議
  - (3) その他
  - (4) 閉会
- 5 会議概要
  - (1) 入札および契約に係る制度の運用について（平成31年4月1日～令和元年6月30日）
    - ・契約件数、落札率の状況について説明
    - ・指名停止の運用状況について説明
    - ・総合評価落札方式の実施状況について説明
  - (2) 抽出事案審議
    - ア 抽出事案1
      - Q 落札者しか実績の加点を受けていないが、他は実績がないということか。
      - A 応札した建設事業者の中で実績があった業者は落札者だけだった。
    - イ 抽出事案2
      - Q 総合評価落札方式の地域防災力維持型は、各地域の防災力を維持していくための制度だと理解しているが、ひとつの建設事業者が多くの工事を落札する制度にはなっていないのか。
      - A 発注機関ごとの地域防災力維持型の契約件数に応じて加点評価を行っているが、今年の5月から、この加点の評価方法を見直した。例えば同じ入札日に3本の地域防災力維持型の発注があった場合には、ひとつの工事のみ最大の加点を申請できるが、他の工事は最大の加点ができないように改正した。
    - ウ 抽出事案3
      - Q 砂を移設すると、どれくらいの期間、砂浜は保たれるのか。
      - A 砂の動きは波や風などの自然の条件に左右されるため、年によって動く量も変わる。しかし、砂浜を守るためとはいえ、いつまでも同じ工事をするわけにはいかないので、突堤や離岸堤の整備計画を作成しており、これらが完成すれば砂の動きが小さくなる。
      - Q 工法についてだが、サンドポンプは使わないのか。
      - A 施工場所は遠浅なので、重機で砂を直接掘削して、横に動かした方が金額を低くできる。

エ 抽出事案4

Q 応札が1者だったが、他にもできる業者はいないのか。

A 他にもできる建設事業者はある。過去にも同様の工事を発注しているが、今回の工事はそれらに比較すると金額が小さいため、入札を敬遠したのではないかと考えている。

オ 抽出事案5

Q 猛禽類調査は年度ごとに発注しているのか。

A そうだ。

Q 毎年発注する必要があることは理解できるが、調査のノウハウや調査員の配置などの調査効率を考慮すると、ひとつの事業者複数年度の契約で発注することを検討してもよいのではないか。予算の都合などの理由でできないのか。

A 工事が複数年度にまたがるときは継続費の予算を組んで、ひとつの建設事業者が発注することができる。一方、本件のような調査は年度によって調査の場所が変わるので、違う事業者でも業務を行うことができるという意見もある。発注方法については、今後、研究したい。

Q 環境影響調査として、猛禽類以外も行っているのか。

A 水質、植物等の調査も行っている。

(3) その他

期間中に談合情報はなかった旨を報告